
 新フェロー紹介

茅野 健(かやの たけし)氏

生年月日 明治43年2月24日

学 歴 昭和7年3月 東京帝国大学工学部電気工学科卒業

経 歴 昭和7年 日本放送協会技術研究所員

昭和8年 軍務及陸軍多摩研究所陸軍技師

昭和16年 田辺製薬株式会社取締役

昭和19年 名古屋帝国大学教授

昭和23年 日本電信電話公社経営調査室次長

昭和35年 松下通信工業(株)専務取締役

昭和39年 松下電器産業(株)技術本部東京事務所長

昭和48年 株式会社オーケン取締役社長

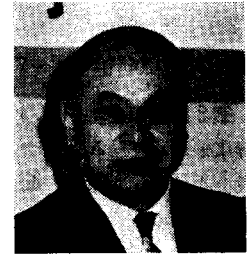
業 績 (資料)『生産管理便覧』丸善,『マーケティング便覧』丸善,『信頼性便覧』日刊工業,『品質管理便覧』日本規格協会,『工場実験の進め方』日刊工業(共著),『近代経営のマネジメント』日刊工業,『経営数学講座』,『経営工学講座』,『説得の技術』講談社,等.

またOR学会設立当初より参画,日科技連主催「ORセミナー」講師,日本規格協会「ORセミナー」および「OR」関係の分科会主査等.

所属機関・地位 株式会社オーケン 社長

他の学協会における活動状況 日本品質管理学会理事,電気通信学会・信頼性委員会国内委員長,日本生産性本部参与,日本規格協会・信頼性友の会副会長,科学技術庁環境設備委員会委員

その他 1958年 デミング賞受賞(個人)



近藤 次郎(こんどう じろう)氏

生年月日 大正6年1月23日

学 歴 昭和20年9月 東京大学工学部卒業

学 位 昭和33年 工学博士

経 歴 昭和15年3月 京都大学理学部数学科を卒業し,東大工学部航空学科へ入学,昭和17年より陸軍航空技術将校として勤務,終戦後,復学した.昭和21年より東京大学講師,昭和29年航空学科再開に伴い助教授になる.この間,総理府統計局技官,聖心女子大学教授等を歴任する.昭和33年より工学部教授となり現在に至る.

業 績 昭和31年本学会創立に尽力した.その後理事,Journalの編集委員長,副会長(1966~67,1972~73)その他,研究普及委員,委員長,表彰委員,委員長などに任ぜられ,また1967年8月にはORAW(Operations Research Around the World Meetings)の日本側委員となった. IFORSには第2回,第4回,第5回,第6回に参加,第6回では日本の首席代表として活躍した.

ORの分野では,予測,最適化法,システム工学,信頼性等の分野で論文を発表している.また昭和32年度は国産輸送機YSのOR,昭和42年度は同YXのORセンターのリーダーとして研究指導にあたった. OR関係の著書では,『経営と管理のための数学入門』,『ビジネスマンの経営数学演習』,『企業経営と経営数学』,『オペレーションズ・リサーチ入門』,『OR』,『OR手法入門』,『社会科学のための数学入門』等がある.

所属機関・地位 東京大学工学部 教授

他の学協会における活動状況 日本航空学会等多数の学協会に参加

その他 1958年度 大内賞,1967年度 デミング賞 受賞



藤 森 謙 一(ふじもり けんいち)氏

生年月日 明治44年3月30日

学 歴 昭和9年3月 東京帝国大学工学部土木工学科卒業

学 位 昭和40年 工学博士

経 歴 昭和9年4月 内務省東京土木出張所
 昭和30年3月 建設省近畿地方建設局企画部長
 昭和32年10月 日本道路公団計画部長
 昭和36年9月 日本道路公団理事
 昭和43年11月 清水建設株式会社常務取締役
 昭和45年11月 清水建設株式会社専務取締役



業 績 日本道路公団在職当時、高速道路の計画・建設・運営に関してORの手法を導入し、わが国における交通・輸送についてのOR分野の開拓に努力した。OR学会については、1964年ハワイにおいて開催された日米OR学会共同主催ORSA会議に日本側代表として出席、日米OR学会の連繫に尽くした。発足当初より基礎づくりに尽力され、とくに岸会長、安川会長の片腕として、現在のOR学会の基盤をきざいた功績は大きく、常任理事(1960~64)、監事(1965, 68~70)、副会長(1966, 67)を歴任し、現在も評議員として活躍中である。

所属機関・地位 清水建設株式会社専務取締役(土木担当)

他の学協会における活動状況 (社)土木工業協会契約制度研究委員会委員長、千葉工業大学教授、交通工学研究会副会長、道路緑化保全協会副会長、(財)高速道路調査会理事、(社)日本道路協会常務理事、(社)国際建設技術協会理事

松 田 武 彦(まつだ たけひこ)氏

生年月日 大正10年9月14日

学 歴 昭和18年9月 東京大学工学部造兵学科卒業

昭和30年6月 米国カーネギー・メロン大学工業経営大学院修了

学 位 昭和37年 工学博士

経 歴 東京大学特別研究生、カーネギー・メロン大学主任研究助手、東京工業大学助教授を経て、昭和38年10月 東京工業大学教授

業 績 米国留学中(1950~55)、カーネギー・メロン大学における米空軍

委託研究プロジェクトのグループ・リーダーとして、企業の生産活動

における組織習熟による生産費の過渡特性の計量的研究と、その動的損益分析への応用を通じてOR活動に従事。

東京工業大学においては、主として組織理論および経営システム論の分野の研究、とくに解析的方法ならびにシミュレーションによる多部門・多階層組織の特性研究に従事、「経営科学」に論文発表。

なお企業に対するORコンサルティング活動の経験に基づき、日本的組織風土とORに代表される科学的思考との関連を研究、著述。『革新への責務』鹿島研究所出版会、昭和42年/『計画と情報』日本放送出版協会、昭和44年。

OR学会については、その創立当初から参画。庶務理事、刊行物委員長、副会長。

所属機関・地位 東京工業大学 教授(工学部経営工学科)

他の学協会における活動状況 日本工業経営学会理事、IFORS(国際OR学会連合)副会長、次期(1974~76)会長就任予定。



三 上 操(みかみ みさお)氏

生年月日 明治44年6月1日

学 歴 昭和9年3月 東北帝国大学理学部数学科卒業

学 位 昭和23年 理学博士

経 歴 陸軍教授, 東京陸軍幼年学校教官
旧制福岡高等学校教授
九州帝国大学助教授(工学部)
九州大学教授(工学部)

業 績 昭和20年代初期まで微分幾何学の研究に従事, その後統計的品質管理に惹かれ, とくに多段階抜取検査方式の開発に深い関心をもった. 最近ではOR関係に集中し, 輸送型問題, 機械修理計画問題などについて寄与がある. 著書には, 『応用推計学』内田老鶴圃, 1959年, 『統計的推測』筑摩書房, 1969年, 『微分幾何学』東海書房, 1947年, のほか, 啓蒙的なものも数種ある.

OR学会については創立以来の会員で, 評議員, 理事, 副会長を歴任し, 現在も表彰委員, 編集委員である. また九州地方のOR普及に努め, 昭和41年には九州支部の創立に参画し, 初代内山支部長のもとで副支部長, 続いて支部長に就任し今日に及んでいる.

所属機関・地位 九州大学 教授(工学部応用推計学講座担任)

他の学協会における活動状況 日本IE協会常任編集委員, 九州IE協会理事・運営副委員長・編集部部长, 昭和39年度日本数学会秋季総会分科会委員長



山 口 英 治(やまぐち ひではる)氏

生年月日 明治40年8月11日

学 歴 昭和13年5月 陸軍大学校卒業

学 位 なし

経 歴 昭和15年12月 陸軍大学校兵学教官
昭和41年4月 東洋大学経営学部教授

業 績 「条件変化に伴って変動する品質標準の設定」1956年, 国際統計協会リオデジャネロ総会, 『需要予測』培風館, 1963年, 『附加価値生産の調査』経済同友会, 1963年, 『企業予測』日刊工業新聞, 1965年, 『不完全情報下の行動選択』白桃書房, 1971年, 『北朝鮮の経済』日韓経済協会, 1973年

所属機関・地位 東洋大学経営学部 教授

他の学協会における活動状況 日本品質学会監事



山 口 襄(やまぐち のぼる)氏

生年月日 明治40年11月11日

学 歴 昭和7年3月 北海道大学工学部卒業

経 歴 東京電気株式会社(後東京芝浦電気株式会社)入社
同社常務取締役 監査役
東芝ベックマン株式会社社長を経て取締役会長

業 績 『トップマネジメント』(共著)1952年、『企業に應用される統計学』
(共著)1953年、『品質管理ガイドブック』(共著),『品質管理読本』
(編修)1957年, その他

所属機関・地位 東芝ベックマン株式会社 会長

他の学協会における活動状況 日本規格協会理事, 日本IE協会理事, 日本品質学会副会長

その他 1963年 デミング賞受賞, 1969年 藍綬褒章受章

